

補助金審査委員会による実績評価結果

団体名	緑のまちづくりの会
事業名	園芸福祉事業
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none">・収支報告書に県や古賀市の補助金があげられているが、公募型補助金との関連はどうなっているのか。・全体の活動報告が添付されているので、全体のイメージがつかみやすいものの、公募型補助金以外の補助金も受けていることもあり、当該補助金で出たお金が何にいくらぐらいかかったか、数も含めて詳細に報告をしていただきたい。・収支報告書の経費科目の中で、「掃除用具、廃材修理」及び「水道・電気器具補修」という内容があげているが、どのような消耗品なのか。・精力的な活動は評価できるが、将来的な自立に向けた取り組みの効果が見えなければ、今後の継続には疑問が残る。	

補助金審査委員会による実績評価結果

団体名	古賀市民オーケストラ
事業名	定期演奏会
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none">・申請時に予定していた高齢者に対する呼びかけはされたのか。・障害者の入場者数がゼロだったのは案内が遅かったのが主な理由となっているため、今後はしっかりと周知をしていただきたい。・市民に低料金でオーケストラを提供するということだけを見ればすごくいいと思うが、オリジナルの団員が14名に対し、客演が40名にもなるのはいかがなものか。人=金になっているのではないかという最初の審査のときの心配や危惧が改善されなかったところが団体側としてどう受けとめているか心配になった。向かっていく方向が定まってない感じがする。・客演がどの程度日ごろの活動に参加しているのかわからないが、付け焼刃的に人を集めた形になっていないか。今後の見通しなり、改善策なり、検討したほうがよい。今のスタイルのまま客演を中心にするなら、宣伝活動に力を入れることも必要ではないか。・自立に向けた取り組みという点で、収入の広告代で5000円の広告が6枠しかなかったのは、市民に定着していると言われてる割にはすくないのではないか。自立に向け、もう少し努力していただきたい。・演奏のクオリティーが低いのであれば、文化度向上に効果があるとは言いがたい。熱意があるかもしれないが、演者自身の技量向上が主目的ではないので必要性に対して疑問を持たれても仕方ないのではないか。・この活動は20年も続いていて、市民の方々に定着をしているということであり、是非続けていただきたい。他方で、適正化ということでは団体の自立に向けて一層の努力、また団員の確保、コスト削減等の努力も必要。	

補助金審査委員会による実績評価結果

団体名	特定非営利活動法人 古賀市文化協会
事業名	夏休みこども体験教室
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none">・今は、参加費用は徴収していないということだが、材料費や保険料はどうしているのか。・審査時にはなかった旅費が支出されているが、必要に応じてそうなったなら、やむを得ないが、外部からの旅費のいる講師は想定していなかったのか。・今後継続していくためにも、対価収益を確保することまたそれに耐えうる内容と広報を行うこと、ターゲット層が関心を持つようなタイトルや日時設定など工夫をすること、関心の高かった内容については回数をふやすなどの対策を考えるとよいのではないか。・定員 20 に対して多数の申し込みが出た場合、もう 1 回増やす方法や人気がある教室はあらかじめ 2 教室用意するというのも、いいかもしれない。	

補助金審査委員会による実績評価結果

団体名	古賀市「第九」実行委員会
事業名	古賀市第九演奏会
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none">・収支報告書をいきなり別紙明細とはせずに、科目ごとに整理し、その後詳細を添付すること。実施体制が二つに分かれていて混乱があったとしても、手抜きをせずにしっかりと書類をあげていただきたい。・報償費、合唱指導料は、世間一般的にはどういうものなのか。費用が高すぎることはないか。謝礼規定に則したものになっているのか。・熱意は認められ自立に向けた可能性を持っていることから、今後はより自立の方向に向かってかじを切って展開していただきたい・第九演奏会は近隣でも同様に行われていると思うが、入場料や参加料は妥当なものなのか調査して、適正でない場合は、価格の変更も検討すべきではないか。・参加者向け、来客向けのアンケート調査の実施をお願いしたい。	

補助金審査委員会による実績評価結果

団体名	古賀市市民劇団 DAICOON
事業名	演劇ワークショップ 「悠久の風」
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none">・収支報告書の収入に子ども夢基金というのが当初計画されていて、実際決算に出るようになってきているが、この復活というのは有り得ないのか、将来的にはどうか。・収支報告を見て、お金がかかり過ぎではないかという印象を受ける。寄附金や助成金を得てやっているからには、支出の適正化に努めることも必要ではないか。もう少し支出をスリム化し、報償費あたりをかなり工夫すれば補助金がなくてもやっていけるのではないか。・ワークショップに参加して一緒に劇をしたのは結局少数であり、もう少し実際に動いたり、劇をするようなお子さんが増えるといい気もする。団体から団員の確保に向けてのコメントは特にないようなので、そのあたりの考えを聞かせて欲しい。	

補助金審査委員会による実績評価結果

団体名	古賀市商工会
事業名	古賀市商工会クリスマス市民祭
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none">・申請時の事業概要では、商店街をクリスマスイルミネーションで飾りつけする記入されていたが、実際には、商工会横の飾りつけということで、場所も狭い範囲での実施であったようである。・収支報告書に項目がずっと書いてあるが、科目ごとに集計して、当初と比較できるようなかたちでお願いしたい。・市民祭決算というのが書いてあるが、対象分と対象外分もあわせて書いてあり分かりにくい。対象分と対象外分を明確にしていきたい。・成果に真剣に向き合っている熱意が感じられない。税を投入してまで継続していく必要は低いと思われ、自助努力による実施が望まれる。・実績報告書の中で、実施効果としては商店街の活性化、賑わいの創出や憩いの場を提供することができたと書いてあるが、継続的にできてないという気がする。継続的に賑わいに供することができるようにお願いしたい。一時的なものではなく商店街の活性化に繋がったのかこの報告書では伝わりにくい。・申請時にアンケートなどを行って顧客の満足度がどうだったのかをちゃんと調べて今後につなげるようにきちんとやってくださいという意見をつけていたにもかかわらず、今回特にアンケート調査を実施したり、顧客満足度を図った様子が見えない。・参加者数 1000 人となっているのは、イベントに参加した人の数なのか、通行人とか見に来た人の数なのかを確認させていただきたい。また、なぜ 1000 人なのかの根拠を示して欲しい。	

補助金審査委員会による実績評価結果

団体名	古賀市商工会
事業名	古賀市商工会駅前商店街土曜夜市
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none">・収支報告書の支出について、消耗品や報償品など科目ごとに集計して欲しい。また、収入について、実行委員会の負担金とはどういったものか。・一般的に出店料はいくらぐらいが相場なのかを見ながら、店舗数を増やすと同時に、出店料も少し上げるというのも今後必要になってくるのではないか。・もともとアンケートによる意見収集が目標として掲げられていたにもかかわらず、出来なかったのはなぜか。反省や改善を期待するが、できない場合には税を投入してまで継続していく必要性は薄いと判断せざるを得ないのではないか。・イベント自体は、楽しそうでいいと思うが、基本的に費用のほとんどが補助金で賄われており、財政的な問題があるのではないか。せっかく商工会という大きな団体が運営しているのに、何とか工夫ができないのか。あくまで補助金は補助というような位置づけで出来るように財政的な改善策検討をしたほうがよいのではないか。	

補助金審査委員会による実績評価結果

団体名	特定非営利活動法人晴天人
事業名	古賀市PRワークショップ
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none">・当初想定どおりにいかなかった部分や目標未達成の部分に対して真摯に向き合い的確な改善策を見出すことがなければ税を投入してまで継続していく必要性が薄くなる。自立活動という部分も含めて大幅な改善が必要と思われる。・活動実績に来場者数が記載してあるが、一日にすると来場者数が無い場合もあるのではないか。もう少し周知とか人を呼ぶための努力を求めたい。・本当に多くの人が集まるのかや商店街の活性化につながるのかというのは、採択時から疑問、不安がある中で、実際に26年度1年間やってみたら、やはり人が少なかったり活性化という面では結果につながりにくかったということがあるのではないか。その反省を踏まえて27年度・28年度はしっかりとやっていただきたい。・商店街の活性化を図るという目標が掲げてあるが、商店街の中の駅前1店舗だけの事業でしかない。来場者数が少ない状況もあり、基本的に考え直さないといけないのではないかと思う。個人的には努力されているが、これで商店街に人が集まるという感じがしない。商店街や商工会、行政や地元などもっと何か連携して考える必要もあるのではないか。・ギャラリー、教室だけでなかなか難しいと思うので、積極的な情報発信なりイベントなり、バラエティに富む客層も増えるように少し検討しなければ本当に税金を投入するという意味が薄くなる。せっかくの場所なので、もう少し工夫をしていただきたい。	

補助金審査委員会による実績評価結果

団体名	ガールスカウト福岡県連盟第31団
事業名	「いざというときに役立つ、ガールスカウトの知恵袋」 ～災害時に役立つ技術を知ろう～
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none">・ 報告会を聞く限りでは、すごくちゃんとやっている、結果を出しているという感じを受けた。成果物も見たがいいものになっていた。今後も生かしていきたいという話をされており、補助事業としては、非常に適切だったのではないかと思う。団体としては課題は残ったという感想も書いてあるが、団体の運営上の課題について、ちゃんと意識を持っているという点では良いと思う。スカウト入団には至っていないということだが、急に至る話でないであろうし、全体的に見てもよかったのではないかなという印象を受けた。・ ガールスカウトのこの事業は、平成26年のみということだが、また申請しようという意向はないか。総務課でも、防災などに積極的に関わってほしいという意見があるので、これが単年の事業で終わるのはちょっともったいない気がする。・ 印刷3000枚で、3万円程度費用がかかっているが、その印刷物の将来的な利用法は、どのように考えているのか。	

補助金審査委員会による実績評価結果

団体名	薦野の歴史をつなぐ会
事業名	官兵衛KK（古賀市薦野）版「千里眼 薦野増時」宣伝事業
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none">・ 報告内容を見るとしっかり堅実にされているという部分とか、内示額いっぱいまで使おうではなくちゃんと自立という方向に備えて、単純に使い方がまずかったではなく、努力した結果、返還分が出てい部分など、当初想定よりも評価は結構高い。・ 審査時において、一部の人々への偏りが無いようにとか、現段階で会員内にとどまっているような印象を受けるとか、対象はもともと歴史に興味ある高齢者に限られてしまうのではないのかなどの懸念されていたものの、実際、その点は大丈夫だったようだ。域外の人来ているということなので、自分たちの楽しみだけというふうな視点ばかりではなかった。当初の懸念は、全部ではなくても解消されている。・ ほたるの関係、駐車場の問題で地域内だけと記載されているが、ほたる見学というのは近隣市町でも実施してあるので、調査研究して、古賀市民全体が参加できるかたちをお願いしたい。	

補助金審査委員会による実績評価結果

団体名	わんにゃんフレンズ古賀
事業名	ボランティアによる飼い主のいない猫の捕獲避妊去勢手術・啓発活動
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none">・評価書の中に関係課との連携が進んでいると書かれてあるが、具体的にどのような連携なのか、状況なのか。例えば、定期的にミーティングをやっているとか、情報交換しているとか、あるいは現場に出ているということはないのか。・今回の補助金を使っての活動で1番成果があったと思うのは、環境課の意識が変わったこと。申請時の担当課の評価を今見直していくと、地域的活動に対する理解が全くなかったとあるが、今回の評価を見ると、実情を把握して、活動意義を理解して、前向きに取り組んでいく必要があることを環境課が認識をしたというのが1つの大きな成果になると思う。・本来なら行政が率先してやるべき事業だと考えているので、本当にこれでよかったのかと思う。この事業が終わっても、環境課も補助金だけではない何かを考えていくべきだと思う。・どちらのやるべき話かどうかは別にして、課題が目の前にある以上、お互いのできることをちゃんと生かしながらやっていくということが求められていくと思う。行政の意識が変わったということであれば、具体的にどんな役割を果たしていくのが重要。市全域の実態を把握するという話については、その現場で活動する団体よりも、市のほうが得意だったりする可能性もあると思うし、例えば、単なるその啓発、一人一人の意識を変えていくってという話で追いつかないという結果が出ているのであれば、政策にする必要性も出てくると思う。環境課がどういうふうな連携をしてるのかということところが少し見えてくると、この先一緒にやっっていこうというところの信憑性が出てくるのではないかと思う。	

補助金審査委員会による実績評価結果

団体名	星の子文庫
事業名	文庫の成人式
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none">・自分たちだけでやるだけではなく、地域の人達も入れてという取り組みは非常に評価できるところだが、星の子文庫の本体の出し物は、文庫の成人式ということで、文庫を 20 年間頑張りましたというところをしっかりとクリスマスと絡めてお祝いしていく構成になっていたものの、地域のご年配の方々の集まりである合唱が全然そうではなく、雰囲気 を全く感じてなかった。連携というところでは難しいところではあるのかもしれないが、いまひとつイベントの雰囲気とあってなかったというところで違和感があった。・収支報告書について、講師料の単価に誤りがあったり、数や単価の欄が省略されてあつたりするため、もう少し丁寧に書いて欲しい。また、科目ごとの合計を記載にしたうえで、内訳を記載するようにしてあげれば良いと思う。・実績報告書に参加者数が記載してあるが、補助金の事業計画書での目標が達成されていないにもかかわらず、成果報告書では、計画のとおり効果を上げることができたという評価になっている。このあたりはどう評価するべきなのかという点が少し気になる。当初企画書の数値目標に対して、実際できた成果にギャップがあった場合には、会場が変更になったためとか、その他どういう理由があったのかがあればもう少し丁寧に書いていただきたい。・成果報告書の総合的な評価については、事業に対する評価がほとんど記載されていないため、団体の中で事業に対する振り返りがきちんとなされたのかが疑問が残る。自分たちなりの反省みたいなものを書いていただきたかった。	

補助金審査委員会による実績評価結果

団体名	特定非営利活動法人エコけん
事業名	「白くまくんをすくえ!すごろく」バージョンアップ版の作成
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none">• 配るより授業で使うほうがいいという話になったということだが、結果的に 100 個作ったすごろくの所在はどうなっているのか。• 収支報告書を見ると、消耗品の支出を積み重ねてすごろくができ上がったのだろうが、全体的には、備品的なものを作るための事業という感じがする。• 申請の際の計画に、すごろくを作った後で古賀市内のすべての小中学校に案内したり、アンケートや報告書を作成するとあったが、小中学校への具体的なアプローチや事業についての説明が資料だけではわかりにくいため、作っただけで終わりましたというような印象を受けた。作ったものをどういうふうに活用して、どういう成果があったというところが見えない。• 団体としては、結構メリットがあっただろうと思うが、古賀市としてのメリットは少ないと言わざるをえない。地元の小中学校でやっているとあるが、そんなにたくさんやっているわけでもない。今後は、しっかり古賀市内で普及啓発を図っていただきたい。	

補助金審査委員会による実績評価結果

団体名	特定非営利活動法人エコけん
事業名	るんるん♪ごみ拾い
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none">• 成果が出てるかどうかという話に関しては、アンケートの記入者も少なく、しかもその後のボランティア活動につながってるかも分からない点でいくと、成果も出てないという話にならざるを得ない。今後は、アンケート記入に重点をおき意識の変化を調べることがのだが、アンケートのとり方をどう改善をするのかというところは、もうちょっと踏み込んだ記入があればよかったのではないかな。• 報告書についてももう少し詳細なものが欲しい。額が小さくてもそれに見合う活動とか、成果とかというのをしっかり出してくれるならばいいと思うが、そうになっていないと感じた。来た方全員にゴミを拾ってもらおうというのは難しい中で90名ぐらいが参加したというのをどう見るかという評価と、具体的にアンケートはどのぐらい実施できて、回収できたのか、数字をしっかりとあげて、それをどう見るかという評価をまとめていただきたい。• ごみ拾いボランティアには文句のつけようがないが、補助金を使ってイベントをすることであれば、イベントで何を目標にするかや、何が達成できたのかというところをもう一度考えて計画なり、報告なりをしていただきたい。ただのごみ拾いイベントとして終わりましたという感じになっている印象を受ける。チラシにしても、チラシを作成して来てもらうだけではなく、それ自体に啓蒙の目的を持たせたり、来ていただいた方のアンケートなり、反応なりをもう少し丁寧にきちんと集めていただきたい。	

補助金審査委員会による実績評価結果

団体名	特定非営利活動法人古賀新宮子ども劇場
事業名	プレーパークの定期開催から常設に向けたプレーワーカーの育成事業
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none">・ 報告書の書式でいつ何をやってどれくらい参加したか、時系列的な報告を出してもらいとよい。最初の申請書を見なくても具体的に行った内容を記載できるような書式なり、そういう指導をして欲しい。・ 福岡市でやってあるように行政と一緒に共同事業でプレーワーカーの育成をすることはできないか。プレーパーク自体の専門性は民間の団体がもっているのですが、それを活用しながらうまくやるのは有りえると思うのだが、団体の認識がどのような感じなのか。今後の継続にあたっては、育成の努力をする必要はあろうが、1団体のみで無理であるという話であれば、他の地域の団体と組むということも検討してはどうか。・ 実施する側、参加する側も無料に慣れてきているところがあるのではないかと。無料でないで来ないみたいなのところができ上がっている可能性があり、人材を育成するためにはそれでも人に来てもらわないと困るということもあり、無料にしているということはないか。有料にしても人がちゃんと来るようにするための質を担保することを目指していかないといけないのではないかと。せめて保険料ぐらいは取ってもらい、このプレーワーク施設は有料だけれども、良い施設だという認識が広がっていけばいいと思う。方法論としてお金を取る、取らないはあるとしても、自立していこうという姿勢を持っているかは確認したい。	